

「世界一の都市」を目指す東京の交通体系とは ～2020年オリンピック・パラリンピックを契機として～

1. はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を5年後に控え、東京は今、世界で最も注目を集める都市の一つとなっています。1964年大会は、東京の交通インフラの整備が大きく進む契機となり、その後の飛躍的な経済発展を支えることになりました。2020年大会に向けては、既存施設も十分に活用し、成熟社会にふさわしい交通政策を推進していくことが求められます。東京都は「世界一の都市」を目指し、2020年をゴールではなくその先へ向かう跳躍台と捉え、長期的な視点でランドデザインを描くこととしました。こうした中で、交通体系についても、2020年大会さらには大会開催後も見据え、東京の交通が目指すべき方向性について議論を開始したところです。

2. 「世界一の都市」にふさわしい交通体系を目指して

東京では、世界に類を見ない高密度で安全な鉄道ネットワークが形成されていますが、鉄道やバス等の乗継が分かりにくいなど、交通手段相互の連携が十分ではなく、利用者にとって使いにくいものとなっています。また、東京では、自転車が生活に密着した身近で重要な交通手段となっていますが、自転車と歩行者が輻輳するなど、依然として交通事故の危険性が高いという課題を抱えています。一方、国際的な都市間競争の激化、少子

高齢化の進展、環境への意識の高まりなど、交通を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。このため、交通インフラのさらなる充実に加え、交通手段相互の有機的な連携や、成熟社会にふさわしい自転車等の交通手段の活用を目指し、利用者の視点による総合的な交通政策を推進していくことが必要です。

(1) 交通インフラの充実

東京の国際競争力を強化するためには、活発な都市活動を支える交通インフラの充実を図ることが重要です。平成26年度末には中央環状品川線の開通により、首都圏の大動脈となる三環状道路の1つ中央環状線が完成します。今後も、三環状道路はもとより都市計画道路の整備に取り組み、道路ネットワークを形成することにより渋滞を緩和するなど、東京の都市機能に磨きをかけていきます。

また、2020年大会で選手村や競技会場が整備され、大会開催後も発展が見込まれる臨海副都心一帯の交通体系を充実させるため、BRTを想定した新たな公共交通の整備に取り組んでいきます。この導入にあわせて、民間等のノウハウを活用し、水素社会の実現に貢献する燃料電池バスの導入等も検討していきます。

東京の玄関口となる空港の機能強化については、平成26年7月、国の委員会から都心上空を飛行することで発着可能便数をさらに増加させる案が示

東京都知事 ます ぞえ 舩添 よう いち 要一



され、関係者間の協議が始まりました。国から詳細な情報提供を受けつつ、地元の理解も得ながら、羽田空港の容量拡大に取り組んでいきます。あわせて、主要ターミナル駅からの空港アクセスの充実も図るなど、都心に近く24時間利用可能な羽田空港の利便性を向上していきます。

(2) 交通手段相互の有機的な連携

交通インフラの充実とあわせ、交通手段相互の有機的な連携を図ることも重要です。交通結節機能を強化するため、品川駅周辺では、羽田に近くリニア中央新幹線の始発駅にもなる国際交流の拠点として整備を進めます。また、オリンピック道路とも言える環状2号線が通る虎ノ門エリアでは、国家戦略特区の取組みと連動し、複合的な民間開発と一体となって地下鉄新駅を整備していきます。さらに、高齢者や外国人を含め誰もが安心して快適に利用できるよう、駅出入口からホームまで段差なく移動できるルートを確保するとともに、競技会場周辺等の公共交通施設において、多言語表記の充実やWi-Fi接続環境の向上等を図ることにより、交通手段相互の円滑な乗継を実現していきます。

(3) 成熟社会にふさわしい交通手段の活用

成熟社会にふさわしい東京の魅力を高める交通手段の活用を図ることも不可欠です。自転車走行空間の整備、広域的なシェアサイクルの推進等により、公共交通が発達した東京にふさわしい自転

車利用環境を整備していきます。また、先述の環状2号線の新橋・虎ノ門間「新虎通り」では、東京の道路を魅力的な空間に変身させる「東京シャンゼリゼプロジェクト」の第1号となるオープンカフェが誕生しました。今後も、丸の内仲通りなど人々が多く集まるエリアにおいて、国際色豊かで活気に満ち、歩いて楽しい歩行者空間を創出していきます。さらに、市民の認知度が低い舟運を活性化するなど水辺空間の活用も図っていきます。

3. おわりに

2020年オリンピック・パラリンピックは日本再浮上のラストチャンスです。大会を成功させようと全知事の賛同により全国知事大会に推進本部が設立され、東京のみならず全国が一丸となった取組みが始まっています。東京都でも、2020年大会の開催を起爆剤として「世界一の都市」にふさわしい交通体系を目指した取組み等を進めていきます。東京と全国の自治体が力を合わせていく取組み、「世界一の都市」を目指した政策、これらを合わせて展開していくことが、日本全体の発展に繋がると確信しています。首都東京の知事として、開催都市の長として、全力で使命を果たしていきますので、引き続き、みなさまのお力添えをお願いいたします。

BRT…Bus Rapid Transit